



国際会長 (IP) Moon Sang Bong (韓国)

“Yes, we can change” 「私たちは変えられる」

“Courage to challenges” 「挑戦への勇氣」

アジア地域会長 (AP) 田中 博之 (東日本区)

“Action” 「アクション」

“With Pride and Pleasure” 「誇りと喜びを持って」

東日本区理事 (RD) 宮内 友弥 (東京武蔵野多摩)

「為せば、成る」

“No challenge, No fruit”

湘南・沖縄部部長 (DG) 佐藤 節子 (厚木)

「心を元気に きずなを深めあえるワイズをめざそう！」

横浜クラブ会長 (CP) 古田 和彦

「YMCA、ワイズメンと共に！」

“With YMCA, With Y's Men”

監事 松島 美一

ブリテン 古賀 健一郎

担当主事 青木 一弘

会長 古田 和彦
副会長 古賀 健一郎
書記 金子 功
会計 伊藤 誠彦
直前会長 金子 功

<今月の聖句>

古賀 健一郎

『あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。』
(マタイによる福音書 5 章 13 節)

今月のひとこと

「『子鮎釣りしかの川』に立てば」

大高 治

低空で飛行機が飛び、催しものを伝えるサーチライトが夜空を照らすと、それが8月なら尚のこと、昭和20年のことが蘇る。ある日の出来事を綴ってみた。

数年前、5月の連休に娘家族を連れて郷里に行った。娘の夫が実家の墓参りをするのが初めてなら、帰国して間もない



平和日本、小川にも大物

ロンドン生まれの孫には墓参りそのものが初めてだった。そんな初めての後、バーベキュー、焚き火、焼き芋、釣りを楽しんだ。

その釣りでは驚いた。昔遊んだ小川は、その後コンクリート

貼りになり魚など棲めなくなったと思っていたが、近所の人たちは土手から魚が見えるという。なんと、なんと、釣り堀で釣るような鮎が釣れた。30cmと25cm。昔はこんな大物は釣れなかった。

少子化と遊びの変貌、農薬の懸念で、この小川で釣り糸を垂れるような子供達は居ないのであろう。竿では土手まで上げられない。子供用の網にもなかなか入らない。暴れる鮎を斜めにしてどうにか網に入れることが出来た。釣りで網を使ったのは歴史的な出来事。近所の人たちも驚く。昔ならこの大物どこの家でもご馳走だ。

ギンギョバチ(ナマズ似ているが、ギョッキョと鳴き、背びれと胸びれに棘がある)も釣れた。昔はこの川にナマズは居たが、この魚はいなかった。小高い丘から清水の湧く清流が無くなり、少々濁った水に我慢して棲んでいるのだろう。

昔あんなにいた綺麗なタナゴやヤマメはかからなかった。代わって小さいブラックバスが釣れた。やはりアメリカの魚がここにも侵入していた。戦後のザリガニに次ぐアメリカの自然界への侵入だ。室町時代から続く近くの寺池にはブルーギルもいると云う。自然界へのアメリカの侵入も困るが、空からの爆撃機よりはました。

この小川の土手に立つと昭和20年の光景が目の前に浮かぶ。米軍の艦載機グラマンが、北東方面から友部の飛行場(霞ヶ浦海軍航空隊友部分遣隊)の攻撃に向かう時4~5km手前で補助タンクを落とし、高度を下げる。あたかも小川で遊ぶ我々が狙われているようだ。1歳年上の兄は時に小学1年生。弟の私をかばう。土手の藪に隠れると頭を押す。藪の中には蛇が居そうだ。勢いよく下ると川に落ちる。アメリカ機は更に高度を下げて迫ってくる。怖い。だが、迫るアメリカも見たい。いよいよ近づくと土手に顔を伏せ身動きせず飛び去るのを待つ。助かった。

<2018年8月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F
13名	メソ 10名 メネット 1名 コメット 2名 ビジター 1名 ゲスト 8名 合計 22名	92% (メーキャップ 2名含む) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円

<9月の行事予定>

強調月間「ユース」

日	曜	時間	行事内容	場所
4	火	19:00	第82回Y-Y s 協議会	中央YMCA
5	水	10:00	第6回日本語スピーチ コンテスト	神奈川県民ホ ール (小ホール)
13	木	18:30	第一例会	中央YMCA
15	土	14:00	湘南・沖縄部大会	レンブラント ホテル厚木
22	土	14:00	つながる cafe	中央YMCA
27	木	17:00	第二例会	中央YMCA

釣りをした処から 1km 東方には、より頻繁に米軍機が侵入した。高等科 (現在の中学 1~2 年生) の生徒を連れて学校の農場に行っていたお袋たちは、兵隊さんと間違えられたのか、機銃掃射された。シュツ、シュツ、シュツと銃弾が至近距離に突き刺さる。当たれば 4 人の子等はどうかと頭を抱え、生徒にも当たらないように祈ったというお袋の話には何度聞いても身震いした。

8月16日、終戦の翌日、悠々と低空で飛来する米軍機に向かって、近所の兄さんたちに負けず「アメリカの馬鹿野郎」と何度も何度も叫び、手を突き上げた。だがもう藪や樹の下に隠れる必要はない。「雷さん」より怖い零戦とグラマンの空中戦の音はもうしない。米軍機を撃ち落とそうと夜空を照らす探照灯 (サーチライト) も回って来ない。アメリカ憎さと安堵観、何れが勝っていたのであろうか。

それから 20 年、アメリカ駐在を命じられた。それから 40 年、アメリカから年金が送られて来る。そして戦争体験のない妻や戦争を全く知らない娘家族と共に平和の尊さを噛みしめた一日であった。平和日本の礎を築いて下さった先人先達に感謝したい。

娘もアメリカで生まれた。国際化が進んでいる。孫たちの時代には「国際化」という言葉は当たり前、死語同然になっているかも知れない。だが最近、この国際化に杭を刺そうとする動きが出て来ている。人と資本が国境を越えて相互に乗り入れ、幾重にも層を成せば、ミサイルを飛び交わすことが出来なくなるに違いないとの長年の想い、夢で終わらせたくないものです。

「8月第一例会・納涼会報告」

古田 和彦

日時: 8月23日 (木) 18:00~20:30

場所: 驛の食卓

出席者: 青木、伊藤メン・メネ、今村、大江、大高、押川、金子、古賀、松島、古田

コメット: 今村創太・美保

ビジター: 辻 剛 (横浜つづき)

ゲスト: バンド演奏者; 井田博康・真知子、酒井邦雄

ポエポエフラ; 澤村由紀恵、関口志津、西山篤子、町井由美、山田順子

定刻、今村ワイズの司会で開会。古田会長の点鐘はコップに箸で、そのあと、楽しい会にしましょうとの挨拶があった。ワイズソングは、本日は特別に井田真知子さんの伴奏があり、高らかに歌いあげた。つづいて、ワイズの信条を唱和した。今月の聖句は押川ワイズが列車遅延により遅れたため今村ワイズが感話を述べた。ビジネス・報告に移り、資料を皆さんに見てもらふこととするが、9月5日の日本語スピーチコンテストへの参加要請、西日本豪雨災害への募金依頼、9月15日の湘南沖縄部、部大会のアピールが古田会長からあった。

食前感謝の祈り、乾杯を松島ワイズが行い、食事・歓談に入った。横浜ビールを飲みながら、まずは、座席の順番に自己紹介を行った。メンバーだけでなく、コメット、ビジター、ゲストの皆さんは例年顔を合わせる方々で気の置けない方たちで、それぞれ簡単に挨拶する。

いよいよ、ハワイアン・ウクレレ演奏となり、コロヘ今村 (今村



ワイズ) さんの音頭でハワイアン演奏、それに合わせてポエポエフラのメンバーのフラダンスと今年もまた納涼の夕べを十分に盛り上げた。そのうち、メンバーもポエポエの方々に誘われて踊りだし、笑いの渦に囲まれた楽しいひと時を満喫した。

ただ一つ残念なことは、メンバーが少なくなったことと、つか・鎌倉クラブの合同例会 (納涼会) が直前にあったことからビジターが少なく、この素晴らしい納涼例会の参加者が 22 名にとどまってしまったことである。

定刻午後 8 時半満ち足りて古田会長の点鐘をもって閉会した。



「加藤邸納涼会参加報告」

伊藤 誠彦

8月21日、21回目となった加藤邸納涼会が、横浜とつかクラブと鎌倉クラブの合同で開催されました。

司会は横浜とつかクラブ直前担当主事の長田さん。参加者はゲスト・ビジターを含めて約40名。

千葉鎌倉クラブ会長の開会挨拶、ワイズソング、ワイズの信条、浦出横浜とつかクラブ会長の連絡事項に続いて、横浜とつかクラブの入会式が加藤ワイズの司式で行われました。

入会者は岡進さん。岡さんは横浜とつかクラブのチャーターメンバーであり、1994年以來の再入会だそうです。立会人は佐藤相南・沖繩部部長、浦出会長及び吉原直前会長。

入会式の後には、いつもながら加藤さんのご家族をはじめとして用意して下さった数々の料理に舌鼓をうちながら、あちこちで歓談の輪が広がり、日中は酷暑でしたが、その頃には涼風にも恵まれ、楽しい納涼会となりました。

アピールタイムでは、古田横浜クラブ会長をはじめとして、各クラブからのアピールの後、加藤ワイズと並んで、今年88歳、米寿を迎えられた今村ワイズが、「コロへ今村&レイキングス結成25周年を記念して、新横浜プリンスホテルで、ディナーショーを開催するので皆さんのご来場をお待ちします」とアピール。盛んな拍手を浴びておられました。



加藤邸納涼会参加者

今回、横浜クラブからは遠藤ワイズが出席、遠藤さんはご存知の通り、仕事が多忙で、昨年度はクラブの例会には1年間一度も出席ができませんでした。

それが、たまたま時間があったということで参加されたものです。加藤邸納涼会の持つ魅力の一端を如実に物語るものと感心しました。

横浜クラブからの参加者は、伊藤メン・メネ、今村、遠藤、金子、田口、古田の7名でした。

「『祈りのナガサキ』に参加して」

古賀 健一郎



8月9日、YMCA ACTの特別企画『祈りのナガサキ』に参加した。高校まで長崎で育った私は、今回の企画を通して、郷里から離れた場所で、『8月9日』に、心に残る深い祈りを捧げることができたことを、感謝と共に大変嬉しく思った。

語り手の佐藤千郎牧師は、長崎県諫早のご出身で、こどもの頃、長崎で原爆被爆者が小学校に運びこまれるのを目撃した体験の中で、貴重なお話をして下さいました。

特に、原爆投下当日から、被爆者の救護にあたった人たち

の多くは、被爆者に残留していた放射能を浴び、二次被爆者となり、このことが理解されるまでには、かなりの年月を要し、その間の肉体的、精神的苦痛は筆舌につくしがたいものがあったと話された。

その後、ボランティアリーダーの皆様とも一緒に、ハンドメイドのアロマキャンドルを灯しながら、温かく柔らかい光と優しい香りの中で、皆で静かな祈りの時間をもった。

佐藤先生の祈りの導入の言葉『今日73回目の長崎原爆の日を迎えています。あの日何があったのか。小さな街の出来事に想いを傾けました。そして癒されがたい深い悲しみから生まれた決意に、今を生きる私たちに求められる祈りを示されました。聖フランシスの平和の祈りの一節をかりて共に祈りましょう』に従って、聖フランシスの平和の祈りである『わたしに求めさせて下さい。慰められるよりも慰めることを、理解されるよりも理解することを、愛されるよりも愛することを』を皆で祈りを合わせ、それぞれがしばらく想いを傾ける時をもった。そこで映像と共に流れた曲、(被爆二世の)福山雅治の被爆『クスノキ』の歌詞の一節『我が魂はこの土に根差し、決して朽ちずに 決して倒れずに……我が魂はこの土に根差し葉音で歌う生命の叫びを』が、私の今回の想いのすべてを表してくれた。こうして皆で心合わせた祈りの時は、本当に私の心に強く響いた時間だった。

武力による絶え間ない国家間競争による緊張が増している現状において、平和がもろく感じられることがある。今回のYMCA ACTの企画がまさしく証明しているように、平和を形にしていくYMCAの大きな働きの中で、私もまた微力ながらも、その活動を支える一員でありたいと思う。

佐藤千郎先生、YMCA ACTの関係者の皆様、ボランティアリーダーの皆様今回の企画・開催における大きなお働きに心より感謝申し上げたい。

「快拳！！金足農準V」

今村 讀



今年の夏の甲子園は、史上最多の56校が参加した記念の100回大会で、公立校はわずか8校であった。最後まで残ったのは強豪校を次々と倒した全員地元秋田出身の「雑草軍団」秋田県立金足農業高校と私立大阪桐蔭高校であった。東北勢初の優勝こそ逃したが金足農の健闘は全国に大いなる感動と共感を与えた。優勝より価値のある準Vだ。

戦前から戦後のある時期までは公立校も強かったが、その後全国からエリートを集める所謂私立強豪校が続出し、今や甲子園は私立強豪校の大会の感がある。今度の金足農の快拳は地元だけの選手で頑張る高校球児に大いなる夢と希望を与えたものである。

更にパワハラや不正な不祥事が相次ぐ最近のスポーツ界にだけでなく、暗くなりがちな世相に光を差し込ませた功績は計り知れない。

金足農の選手達に大きな拍手を送りたい。

(元高校球児 記)

第二例会報告

金子 功

日時：8月23日(木) 17:00~17:30

場所：横浜ビール・驛の食卓

出席者：青木、伊藤、今村(部分参加) 大高、金子、古賀、古田、松島

8月の第二例会は同日行われたクラブ例会・納涼会に先立って同じ会場で行われた。

協議・確認事項報告

- 1) 9月4日(火) 予定のY-Y's協議会への出席者を確認した。(伊藤、金子、古田)
- 2) 9月5日(水) 予定の第6回日本語スピーチコンテストの準備状況を確認した。
- 3) 西日本豪雨災害支援募金については、今後の例会で3ヵ月に亘って、献金とは別に募金箱にて献金を募ることを確認した。
- 4) 9月15日(土)の湘南・沖縄部大会の横浜クラブからの参加者は、金子書記が月末までに取りまとめることとした。
- 5) 10月8日(月・休)~9日(月)の熊本スピリットクラブ訪問については今村、古田、齋藤の3名が訪問する予定であることを確認した。DBC締結を意識しての返礼訪問である。
- 6) 横浜クラブとつづきクラブが支援する横浜YMCA第3回幼児サッカー大会は日程調整中との事。
- 7) 横浜クラブブリテン編集に関し、一人に負担が偏らない工夫について協議。統計表、予定表、例会プログラムの管理は古田会長が担当することで合意した。
- 8) ワイズポテトの申込み(9月10日締め切り)を金子書記が取りまとめることとした。
席上、議題にはなかったが、毎年発行されるロースターの必要性、又個人情報保護に関する管理の状況について意見が交わされた。

1チーム4人制

②子ども向けゲーム「玉入れポン」

参加費：1名 500円

■第21回横浜YMCAインターナショナル・チャリティーランのご案内

障がいのある子ども達を支援するために、10月20日(土)、みなとみらい21地区臨港パーク内特設コースで、チャリティーランが開催されます。現在、参加チームを募集しております。この活動の趣旨にご賛同いただき、多くの方にご参加いただけるようお願い致します。

日時：10月20日(土) 午前9:45(開会式)~午後2:30

会場：みなとみらい21地区臨港パーク内

参加費：1チーム5万円

9月例会プログラム

日時：9月13日(木) 18:30~20:30

場所：横浜YMCA 501号室

司会：古田ワイズ

1. 開会点鐘および挨拶..... 古田会長
 2. ワイズソング・ワイズの信条..... 全員
 3. 今月の聖句..... 古賀ワイズ
 4. ゲスト・ビジター紹介..... 古田会長
 5. 食前感謝..... 古田ワイズ
 6. 食事
 7. 卓話 「横浜YMCA日本語事業」平岡守氏
横浜YMCA専門学校 日本語科主任
 8. ビジネス・報告..... 古田会長
 9. **Happy Birthday** 該当者なし
 10. 閉会点鐘..... 古田会長
- 例会報告：伊藤ワイズ

YMCA

だより

担当主事 青木 一弘

■「祈りのナガサキ」報告

8月9日に、YMCA ACTにて「祈りのナガサキ」が開催されました。参加者からは、被爆の体験などを世代を超えて伝えていくことの大切さ、小さくても平和につながる活動に取り組みたいなどの感想や意見が活発になされました。会は、祈りからはじまり、祈りで終わり、それぞれに平和を願った時を共に過ごしました。

■第18回会員スポーツ大会のご案内

毎年恒例のビーチボールでバレー大会の季節になりました。身体を動かし、汗を流し、笑顔を交わす楽しい大会です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日時：9月24日(月・祝) 10:00~15:00

会場：聖光学院中学高等学校体育館
(緑園都市)

内容：①ビーチボールバレー大会

10月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
8-9	月		熊本スピリットクラブ訪問	熊本YMCA
11	木	18:30	第一例会	中央YMCA
20	土	9:45	第21回横浜YMCAインターナショナルチャリティーラン	みなとみらい21地区
25	木	17:00	第二例会	中央YMCA

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA青木一弘にご連絡下さい。
メール aoki_kazuhiro@yokohamaymca.org
電話 045-641-5785